



## 道はいつも開かれている

『道はいつもひらかれている』（古谷綱武）という詩があります。全部で22連もある長い詩ですが、連の書き出しはすべて「道は、すべての人の前にひらかれている」から始まっています。「道は、すべての人の前にひらかれている。その人にやる気があるかないかだけである」（第1連）、「道は、すべての人の前にひらかれている。しかし、道がとざされていると思う人の前には道はとざされている。自分はだめだと思う人はだめになっていく」（第2連）・・・と続いていきます。

3年生は、公立高校入試まであと2週間となりました。すでに自己推薦などで中学卒業後の道がはっきり決まっている人もいますが、ほとんど人はこれからのラストスパートに自分の未来がかかってきます。また、1、2年生も、今日から始まった学年末テストは、新しい学年に続く大切なテストになります。将来、自分が歩む道を切り開いていくためにも、「今」を大切にしてください。今は未来につながっているのです。

さて、「道」といえば、男子フィギュアスケートで日本人初のメダルを獲得した高橋選手が思い浮かびます。下の記事にもあるように、強い気持ちで自分の道を切り開いた彼の生き方に学ぶことも多いでしょう。

フェデリコ・フェリーニ監督の映画「道」。その哀愁漂う主題曲が鳴りやむとともに、ガッツポーズが何度も出た。フィギュアスケートの高橋大輔選手が、五輪で日本男子初となる銅メダルを獲得した◆平坦な道ではなかった。19歳で出た前回大会。4回転に失敗し、失意に崩れた。立ち直って世界のトップに肩を並べ始めた矢先、今度は練習中の大けがでつまずいた。それもスケーターの命である膝のけがだった◆五輪がはるかに遠のいたと感じたに違いない。あまりに辛いリハビリに逃げ出したこともあったという。だが彼は立ち上がり、それどころかけがをプラスにしてみせた。筋力をつけ関節の可動域を広げ、ワンランク上の滑りを身につけて復活した◆そして昨日。冒頭に4回転に挑み、またも失敗した。しかし、呪縛が解けたかのようにかえって躍動感を増した。4年前の転倒も今回の失敗も、大けがさえも、経験をこの日のために生かしたかのようにだった◆フェリーニ監督の映画のせりふを思い出さずにはいられない。「自分には分からないけど、この石ころも何かの役に立っている。この世に役に立たないものなんてないんだ」◆高橋選手と同じくメダルを期待された織田信成選手は、演技中に靴ひもが切れるという信じ難いアクシデントに見舞われた。だけど涙をこらえ、OKサインで再び滑り出した。この先も石ころにつまづくことがないとは言えない。だけど前を向いていさえすれば、道は途切れやしない。

※2月20日四国新聞「一日一言」から引用

その一方で、自分の道を切り開いていく過程で、家族、先生、友達など、多くの人々に支えられていることを知り、感謝の気持ちを忘れないことも大切です。ときには、下の記事のように、まったく見ず知らずの人に助けられることもあるかもしれません。人は決して一人では生きていけないのです。

### 幸せなニュース、知りたいな

高校生(16歳)の投稿

凶悪事件や暗い世相を映す報道が多い中、こんなニュースに出会いました。

1月、パイロットを目指す埼玉県的女子中学生が日本航空石川高校の推薦入試で石川県輪島市に向かう途中、大雪で夜行列車が運休。吹雪の夜、母親と2人で300キロあまりをヒッチハイク。トラック運転手らに声をかけ、試験開始10分前に滑り込みました。臨んだ入試の作文は、「私が感動したこと」。送ってくれた運転手らへの感謝をつづり、見事合格を勝ち取ったそうです。

行き先を変更して乗車させ、「がんばれ」と去っていった運転手さん。「絶対あきらめない」と娘を励まし、ヒッチハイクを決行したお母さん。トラック運転手を探し出して合格を連絡した学校。僕も受験を経験しているので、足止めにあった少女の落胆は痛いほどわかります。そんな時、人々の善意がつながって、夢が叶ったのだと思うと、ほっこりした気持ちになりました。

人の絆の薄さが取りざたされますが、まだまだ世の中捨てたものじゃない。ハッピーニュースがどんどん出てくることを願っています。

※2月21日朝日新聞「声」から引用

あと2日、あと2週間、「道は、すべての人の前にひらかれている。しかし、やりとげるまでは決してあきらめないこと、そしてそのやりとげようとするその心を決して失わないこと」（9連）が大切です。